ISSN 0910－8610

ULIS Library Communications

図書館情報大学 附属図書館報

Vol. 17 No. 1 2001

目　次

中世における或る無名僧の読書（今泉淑夫）……2
クールボワン『図説フランス版画史』（寺田光孝）……4
ビブリオメトリックス，インフォメトリックス，
サイエントメトリックス（小野寺夏生）……5
平成13年度購入雑誌について（図書館情報課）……6
好きな言葉などについて（上月英樹）……7
図書館から……8
附属図書館日誌……8

中世における或る無名僧の読書*

今　泉　淑　夫**

長享2年（1488）正月12日，京で悦雲□歓（えつうん・かん）首座（しゅそ）が亡くなった．禅僧の名は道号と法諱の4字からなるが，この人は諱の上一字がわからない．門派によって共通の系字を用いるので，たとえば歓悦雲などとひっくり返してよばれることもある．この時，彦龍周興（げんりゅうしゅうこう）が，「次韻悼悦雲歓公首座詩并序」を作り，その序に生前の人となりを要約した．

そこに「公平日蔵書，至数百巻，毎有一書入手，命余校讎，而後帰架上矣，嘗謂曰，人不可不学，庶幾他日有読書而起吾家者，公之於余，同門有契，解衣推食，眷遇甚握，日月逢迎，至則必待以賓礼，可謂勤矣，因記，去歳春，同志六七輩，過公看花，花下評詩，詩罷挙盃，一酔忘帰，人皆思睡，公独抽架書一巻，授余読之，乃蘗嶠伝心法要也，余従頭過目，胡批乱判，公如有所感，然鐘鳴燭滅，一笑而止矣，這般之挙，実非浅丈夫之所企焉」という一節がある．

悦雲は日ごろ蔵書家で，数百巻の多きに至っている．一書を入手するごとに，私に見せてその正誤を確かめ，それから書架に納めるという具合だった．かつて，人間学問が大事で，自分は学問によって家を起こすことを願っていると語ったことがある．私とは同門の誼みで，着物も食物も譲り合う仲であり，訪ねればきっと礼をもって応対してくれ，その処遇はこころを尽くしたものであった．ちなみに，去年の春，仲間六七人と悦雲のところで花見をし，詩を詠じたことがあった．詩が終わって酒宴となって大いに飲み，一同は睡ることしか頭にないということになったが，悦雲は書架より黄檗希運（おうばくきうん）の『伝心法要（でんしんほうよう）』を取り出して，私に読めという．私ははじめから流し読みしながらあれこれつまらぬ意見をのべた．悦雲は何か感じるところがあったらしいが，すでに朝の鐘が鳴り燭も尽きていたので，互いに一笑してやめた．こういうことはなまじいの者にはできないものだ，というのが大よその意味である．

悦雲の伝記はほとんど不明である．彦龍のその詩は「花前風雨月前雲，四十纔過四大分，写罷余哀如見面，返魂一炷入梅熏」というものである．年令は44歳ぐらいだったらしい．「首座」というから禅寺では中堅クラスの役だが，住持にはなっていなかった．彦龍は，夢窓疎石（むそうそせき）の直弟子である春屋妙葩（しゅんのくみょうは）から4世にあたる当時の禅林の逸材で，作品集『半陶文集』があり，僧位は低く，官寺の住持にもならず，延徳2年(1490)に足利義政が没した時には，鹿苑院侍衣（じえ）として，その葬儀一切を仕切ることを委ねられたほどの人である．病弱でその無理がたたって翌延徳3年（1491）に34歳で示寂した．悦雲の死から3年後である．上の文章の様子では悦雲の方が後輩のように見えるが，実際は年上で，彦龍の方が学芸の師にあたり，「同門」でもあった．

序の引用しなかった部分によれば，この詩序ははじめに「南陽老人」という人が悼偈を作ったのを次韻したもので，彦龍はこの南陽を「難兄」とよんでいる．「兄たりがたく弟たりがたし」の「難兄難弟」からきたもので，彦龍の南陽に対する敬称だろう．この頃，大鑑派に南陽智鳳（なんようちほう）という人がいた．細川勝元の子で，同じ大鑑派で勝元の帰依を受けたこの時代の代表的な詩文僧である希世霊彦（きせいれいげん）に学び，その縁によって，文明10年（1478）に希世から東山の岩栖院を譲られ，希世が悦雲と同じ長享2年に南禅寺聴松院に寂して以後は南禅寺に籍を置いた人である．細川氏の権勢は強かったので，彦龍はその俗縁を敬して「難兄」とよんだのだろう．悦雲はこの南陽と親しかったと思われる．

また詩序には「希洵侍者の一哀を助ける」ためにとある．故人の門弟もしくはとくに親しかった人を指すのが普通で，悦雲と法系のつながりがあったらしい．この希洵等允（きじゅんとういん）の「希洵」という道号を付けたのはじつは彦龍で，その「字説」がのこっていて（『半陶文集』三），その中に，絶海中津の4世で相国寺の蔵主（ぞうす）であると記している．希洵が夢窓下の絶海の法脈をうける霊松門

---

*Reading of a Medieval Unknown Zen Priest, by Imaizumi-Yoshio

**本学教授

派の人であったことがわかるが，ほかには関係史料がなく，玉村竹二『五山禅林宗派図』にも名が見えない．この人と近かったはずの悦雲の嗣法関係は結局わからない．

『蔭涼軒日録（いんりょうけんにちろく）』文明17年（1485）7月24日条に，蔭涼職亀泉集証（きせんしゅうしょう）が悦雲の興禅軒新築の祝いに酒肴を贈り，同9月12日条には新居祝いの宴に出席したことが見える．興禅軒がどの塔頭にあったのかがわからないが，12日条では，亀泉ははじめその宴に出て，途中で足利義尚に面会するために中座して，帰る時に再び宴に戻って深夜まで飲んでいるから，相国寺内にあったかも知れない．悦雲が数百巻に及ぶ蔵書家であったのは，居所を新築できる財力があったからだし，実家は有力武家だったかも知れないのだが，彦龍の「詩序」がそのことにふれていないのは惜しまれる．

『蔭』によれば，悦雲は文明19年5月に中風にかかって倒れた．この年7月20日に長享元年と改元され，そのまま病床に臥して，翌年正月に死去したのである．

悦雲は本を買うたびに彦龍に見せて「校讎（こうしゅう）」（校定）したという．彦龍ならば，写本であれ，版本であれ，一見してその本の善し悪しを判断しただろうし，ものによっては，悦雲とともに手元の本とつきあわせるということもしただろう．彦龍は本を読みながら内容について論評したという．序の記事が悦雲が蔵書数百巻についてほぼ講義をうけ，読み込んだことをさしているのであれば，容易ならざることである．

彦龍が自ら「胡批乱判」としたのは言うまでもなく謙遜だが，『伝心法要』は禅宗の基本図書である．日本では弘安6年（1283）に北条顕時の求めで鎌倉寿福寺の大休正念が跋を加えた本が出版され，正安4年（1302）にも鎌倉で出版された．悦雲が所蔵したのはこれらの五山版だったのか，あるいは唐本か，別の写本だったかも知れない．金沢文庫には，鎌倉・南北朝期の称名寺僧湛睿（たんえい）が宋版を写した本がある（関　靖・熊原政男著『金沢文庫本之研究』）．悦雲の時代には稀本というのではなかったかも知れない．

中国禅宗は唐代中期には洛陽・長安などの中心地よりも地方にすぐれた僧が出て，新しい潮流が生まれつつあった．とくに江西の洪州（江西省南昌県）には馬祖道一（ばそどういち）（709—788）が出て，百丈懐海（はじょうえかい）がつぎ，さらにその弟子に溈山霊祐（いさんれいゆう）と黄檗希運（おうばくきうん）が出て，それぞれ湖南の溈山，洪州に近い高安の黄檗山によって宗風を振るった．保守的な立場からは「洪州宗の異端」とよばれ，田舎の禅とよばれたが，この法流が伝統的な権威を批判し，新しい宗風はその後の禅宗の主流となったのである．

唐は武宗の会昌5年（845）に排仏が行われ，僧は寺を出て髪をのばし俗人のようななりふりで修行した．やがて宣宗によって禁令は解かれるが，この受難の時代にこの流派は民衆の中にあって田耕の日常生活すべてを修道ととらえる宗風を確立した．寺に戻るのにのびた髪を剃ってはいかがですかと弟子が言うのを，髪の有無に仏はあるのかね，とひやかしたという話がある．黄檗希運の活動に魅せられた裴休（はいきゅう）という役人が希運の説法をまとめて記録したのが『伝心法要』である．裴休の序には大中11年（857）10月8日の年記がある．

内容を紹介する余裕がないが，この書を注釈された入谷義高氏は，各節に「仏とは心である」「無心ということ」「自心が仏にほかならぬ」「心を忘却せよ」「法においてではなく心において悟れ」「求めるものがないということ」などの題をつけている（『禅の語録8　伝心法要・宛陵録』筑摩書房，昭和44年〔188.8：Z-3:8〕）．内容のおおよそを推量していただく．

悦雲が酒宴の後にこの本をひっぱり出して彦龍に意見を求めたのにはそれなりの意味があったので，たまたまこの本だったというのとは違う．かねて，中身の濃いこの書について彦龍に問いたいと思っていただろうと思う．彦龍も酒気を帯びて回転のよくなった頭をめぐらして，この書が成立した背景をふまえ，唐土の禅風革新と禅の根本問題にふれ，その思うところを夜を徹して悦雲に語ったはずである．鳥肌の立つような一夜であったろう．

室町期の禅宗は修道から修学に重心を移していたが，修学もまた容易な途ではなかった．この逸話は悦雲の数百巻蔵書が書院の棚の飾りでなかったことを示唆しているのでもある．壮年で中風に倒れて床につき無名の人に了らねばならなかった人の心境を思いやってみる．詩序において，彦龍はその無念と寂寥を思い，寄り添うようにして，せめてその片鱗を後世に伝えた．無名畏るべし，である．

資料紹介㊷

クールボワン『図説フランス版画史』*

寺　田　光　孝**

西洋に木版画が出現するのは13世紀末頃とされているが，現存する版画は14世紀以降のものである．東洋の版画の歴史に較べると遅いが，西洋の版画は絵や肖像など美術領域のほかに建造物，家具調度の装飾，地図など対象とする領域が広いのが特徴である．西洋の図書館では，版画も一種の印刷との考えから版画収集を始めている．中世写本の細密画も重要な図像（イメージ）情報であるが，版画は図書館の扱う重要な図像情報である．フランス王室図書館の版画部は1667年ミッシェル・ド・マロルの収集した12万３千枚の版画がこの図書館に入ったとき基礎が築かれた．1672年には版画にも納本制度が適用された．蔵相コルベールが活躍していた時代である．今日国立図書館のこの部門は版画，デッサン，ポスター，グラビア，写真のコレクションからなる．

さて，ここに紹介する『図説フランス版画史』〔022.33：C-89〕は版画史研究の重要な文献であり，精選された1,392点を収録している．本書は大型フォリオ版の図版３巻６冊と大型カルト版のテキスト版及び索引４冊の全10冊からなる．テキスト版には図版と版画師の詳細な解説がある．第一巻は初期版画から1660年まで，第二巻は1660年から1800年までのアンシャン・レジーム期，第三巻は19世紀が収録対象である．

巻頭を飾るブルゴーニュで印刷された「百卒長と二兵士」(1370年頃)はヨーロッパ最古の木版とされる．初期木版画はキリストの誕生や最後の晩餐，磔刑図など宗教画が当然多い．「12人の殉教者」(1460頃）図は１枚に描かれており絵物語の最初とされるものである．「一角獣のいる受胎告知」(1445)は1470年にソルボンヌに印刷所が設けられる以前の金属版画である．しかし，金属版画が直ちに木版画に替わった訳ではない．金属版画は，金銀細工師による凸版が最初で，その後，銅凹版，ビュラン，腐食銅版画と技法も発展する．19世紀には石版が一般的となった．

フランスで最初の挿絵入り本はリヨンのマルタン・ユスにより印刷された『人類贖罪の鑑』(木版，1478)であるが，本書では同人の『宮廷の誘惑』が収録されている．一枚物も版画の特徴であるが，「ランスのノートルダム寺院のパルドン祭」(1482)が最初であり，「パリ市の市長の命令」や「聖フランシスコ修道会の第三会員証」などが収録されている．『羊飼いの暦』や『聖十字架の発見』は典型的な民衆版画である．「死の舞踏」は15世紀末に最も好まれた画題であり，本書では30点余が収録されている．

挿絵入り本には物語や歴史的な題材も好まれた．『フランス年代記』(1493)，『歴史の海』(1488）などがあり，後者では「ソルボンヌでの授業図」が見られる．「劇場の図」，慈善病院の看護室や病室など時代風俗図があり，「ポワチエ市の景観」などもある．興趣をそそる歴史的図像も少なくない．1773年に『メルキュール・ド・フランス』に載った「王たちの菓子」の菓子とはポーランドの地図であり，ポーランド分割を諷したものである．「ルイ16世の戴冠式の宣誓」や革命期の「三部会の開会」，「立憲議会」の図，「革命裁判所から出るマリー・アントワネット」(1857)なども興味深い．アンブロワーズ・パレの肖像など有名無名の肖像も豊富である．

図書館に直接関係する図像はないが，図書や読書に関する図は散在する．「著者の図」，「朗読の図」，クリストフ・ド・サヴィニのパトロンへの自著献呈図（1587)，「ガルリー・ド・パレの書店風景」，「愛書家たち」などである．

本書は版画史研究であり美的鑑賞を堪能させてくれるが，同時にまた本書は初期印刷，挿絵入り本などについても貴重な情報を与えてくれる．

---

*Histoire illustrée de la gravure en France, par François Courboin. Paris, Maurice Le Garrec, 1929. 10 v. (750部の限定出版)，by Terada-Mitsutaka

**本学教授

ターミノロジー㊷

ビブリオメトリックス，インフォメトリックス，サイエントメトリックス*

小野寺　夏　生**

ある分野に関わる現象を計量的に取り扱う学問を呼ぶのにしばしば"-ometrics"という語が当てられる．econometricsが最もよく知られているが，他にもbiometrics, chemometrics, psychometrics等は定着している．これらは計量経済学，計量生物学のように概ね「計量××学」と訳される．

ここで取り上げた3つの語もこの族に属し，互いに類義である．informetricsは計量情報学と訳されるが，bibliometricsには計量書誌学と計量文献学の2訳がある．scientometricsには定着した訳語がない．「計量科学」は別の意味で使われているようである．ここでは英語をそのまま音訳したビブリオメトリックス等を用いることにする．これらのうちビブリオメトリックスは最も狭義であるが最も普及していることもあり，これを中心に述べる．

ビブリオメトリックスの研究はCole and Eales (1917), Hulme (1923), Lotka (1926)あたりに遡るが，当時はstatistical bibliographyという語が用いられていた．bibliometricsの語を初めて導入したPritchard (1969)[1]は，これを「記録された情報の様々な局面を数学的・統計学的に分析することによって情報伝達及びある学問領域の発展の特性と伝達過程を理解しようとするすべての研究」と定義しているが，現代でもこの定義は極めて妥当である．

ビブリオメトリックスで計量の対象となるのは以下のようなものである．

(1)　計量される実体 (entity)

「記録された情報」，つまり論文，図書，特許など広義の文献である．最近ではWebページを対象としたWebometricsも現れている．

(2)　計量される主な項目 (item)

①文献の生産者，その所属機関，所属国

②文献が発表された雑誌その他の資料

③発表の年

④主題分野を表す分類や用語

(3)　計量される行為 (activity)

大別して発表（生産）の計量と利用（消費）の計量がある．前者は発表論文数や特許出願数であり，後者は引用数，図書館での貸出や複写の件数等である．それぞれストック統計とフロー統計に相当する．利用のデータは生産のデータに比べ公表されにくいが，ISI (Institute for Scientific Information) の引用データベースは貴重な情報源である．

インフォメトリックス，サイエントメトリックスでは，文献情報より広い対象（例えば科学や科学者に関する統計）も扱うが，研究の目的や手法はビブリオメトリックスのそれと大差ない．但し，インフォメトリックスには計量言語学の概念も含まれている．計量言語学は，文章中の言語の量的特性を分析することにより言語や文章の構造，性質を研究するものである．ビブリオメトリックスも計量言語学も言語情報を対象とするから両者には密接な関係があるが，前者の目的が社会学寄りであるのに対し後者の目的は文学寄りである．付け加えると，計量言語学に対応する英語はlinguistometricsではなく，mathematical linguisticsあるいはquantitative linguisticsである．

表面的な説明のみで紙面が尽きたが，この分野の入門としては，古典で今でも新鮮なPriceの著書[2]をお勧めする．

1) Pritchard, A. Statistical bibliography or bibliometrics? J. Doc. 1969, 25, 348-349.

2) Price, D. J. de Solla *Little science, big science* N.Y., Columbia Univ. Press, 1986.（初版 (1963)〔401：P-93〕の邦訳として，D. プライス著，島尾永康訳．科学の科学・科学情報．大阪，創元社，1970.〔401：P-93〕がある）

*Bibiometrics, Informetrics and Scientometrics by Onodera-Natsuo

**本学教授

平成13年度購入雑誌について

図書館情報課

図書館に配架される購入雑誌のうち，平成13年度に変更となるものは以下のとおりです．

今年度行った図書館購入雑誌の見直しにより，購入中止となるタイトルが多くなっています．

＊新規購入誌

1．医療情報学
2．学校図書館学研究
3．教育委員会月報
4．判例時報
5．Newton（別冊含む）
6．College & undergraduate libraries
7．Harvard journal of asiatic studies
8．International journal on digital libraries
9．Japanese society
10．Journal of government information : an international review of policy, issues and resources
11．Media culture and society
12．Chronicle of higher education

＊購入中止誌

1．からだの科学（増刊と臨時増刊のみ中止，本体は継続）
2．経済学論集
3．月刊コンピュータ・ダイジェスト
4．建築雑誌
5．こころの臨床ア・ラ・カルト
6．視覚障害
7．社会経済史学
8．写真工業
9．全国報刊索引．哲社版
10．組織科学
11．電子情報通信学会技術研究報告（教育工学，画像工学のみ中止）
12．eとらんす
13．Interface＝インターフェース
14．Trigger
15．Acta informatica
16．ALCTS newsletter
17．The Annals of statistics : an official journal of the Institute of Mathematical Statistics
18．Automatic documentation and mathematical linguistics
19．The Behavioral and brain sciences
20．Bioinformatics
21．The British national bibliography
22．Deutsche Nationalbibliographie und Bibliographie der im Ausland erschienenen deutschsprachigen Veroeffentlichungen.
23．Dialectica : international review of philosophy of knowledge
24．Dr. Dobb's journal : software tools for the professional programmer
25．Educom review
26．EMedia proffessional
27．Impact : journal of the Career Development Group
28．Information outlook
29．Journal of economic literature
30．The Journal of economic perspectives : a journal of the American Economic Association
31．Journal of experimental psychology. learning, memory, and cognition
32．The journal of political economy
33．Leipziger Jahrbuch zur Buchgeschichte
34．Management science : application and theory
35．Notes
36．SIAM journal on computing
37．Social change and information systems
38．Sports documentation monthly bulletin
39．System dynamics review
40．Tolley's communications law
41．Научные и технические библиотеки
42．Applied ergonomics : man-machine-environment-systems technology
43．IEEE transactions on communications
44．Managing information
45．NTIS alert. Computers, control & information theory

好きな言葉などについて*

上　月　英　樹**

人生50年近く経てくると，こんな私にも好きな言葉や日頃よく念じるフレーズが出来てくる．

それには，本来のオリジナルの形を変えてしまったものや，その時どきの情緒体験と相まって加工されたものも含まれている．あの時のあの言葉，苦しみに満ちていた頃の支えとなったフレーズや，患者さんの家族の何げない一言などが脳裏をよぎる．その幾つかを，ここに書きしるしてみたい．

Slow and steady win the race

いわゆる「急がば回れ」の諺のことであるが，私の大先輩が，よく口にされていた．エポックメイキングな仕事はもちろん素晴らしいし，出来ればその連続であってほしい．大躍進，長足の進歩や変革が望ましい．しかし，いつもそのようなことばかりではない．むしろ，果たしてこんな仕事や勉学のどこに意義があるのか，果ては毎日，雑事の処理に追われることに何の意味があるのかと疑念にかられる時の方が多い．

そんな時，「歩みは遅くとも，決してあきらめず半歩でも前に運んでいれば必ず道は開ける」という意味に解釈し，特に steady に重点を置いて自分に言い聞かせることがある．

一敗地にまみれて傷つき，あらゆる状況が絶望的であっても，再び立ち上がるためには耐えねばならない．

これは古い．30年近く前の，ある浪人生の手記の中にあった言葉である．作者は，正に耐えて見事志望校へ合格したのだが，掲載されたハンサムな顔写真や流麗な文章に魅せられた．私も浪人生活を経験したので，大分支えになった．

その後も私は様々な挫折体験を経験したが，立ち上がり再び歩みはじめる前には，まず耐えなければならない．耐えている間に少しずつ傷が癒えてくることも多い．いきなり立ち上がろうとして思うようにならず更に苛立つということを避けるためには，有効なフレーズである．

今回のことで，人間を勉強させていただきました．

うつ病は，現在では大分解明され，単なるストレス原因説より脳内の神経伝達物質の減少など，むしろ生物学的な要因の方が重要視されている．

上記の言葉は，御子息が抑うつ状態に陥った時に優れた兄と比べられて苦しかったことや両親の関心も兄にばかり集中して自分は見捨てられた様で寂しかったことなどを本人から初めて聞いた母親が，涙を流しながら息子に詫びた後，私に言った言葉である．

精神医学的には，そのような葛藤だけが原因とは思えないと説明したが，それでも，「人間を考える良い勉強になりました」と何度も言われたことを，10年以上過ぎる今も忘れることができない．やまいに陥ったことをマイナスと捕らえない姿勢と，その母親の謙虚で温かい人柄が彷彿とする．

グラスはすでに壊れたとみなす

これは新しい．最近のベストセラーである「小さいことにくよくよするな！」（リチャード・カールソン著，小沢瑞穂訳，サンマーク出版，1997）［159：C-18］の中の文章である．人生のすべては流転し，始まりがあれば必ず終わりがある．すべては壊れるものであることを知っていれば驚いたり失望したりしないですみ，何かが壊れても，それを持っていた時間に感謝するようになる．

身体はもちろん，あらゆる面に衰えは訪れ，何一つ完全で有り続けるものはない．維持しなければならないという強迫的な考えから解放してくれる一文である．

そのほかに幾つも口ずさむ言葉がある．職業柄，苛酷な人生を強いられた人々と接する機会が比較的多く，難局を処する意味合いのものが主だが，これからは楽しくそして心がときめくようなフレーズにも，たくさん遭遇したいものだと思う．

---

*About my favorite phrases, by Koutsuki-Hideki

**本学助教授

図書館から

Library News

卒業後も本は借りられます

本学を卒業・修了後，附属図書館資料の貸出を希望する方は，４月以降に附属図書館カウンターで登録手続をしてください(身分証明書が必要です)．翌年３月末まで有効の利用証を発行します．

貸出冊数は５冊まで，期間は３週間です．

附属図書館改修工事に伴う臨時休館について

附属図書館では，閲覧スペースの拡大，照明設備の改善，エレベータの設置，児童図書コーナーの設置等のための館内改修工事及びこれに伴う事務室等の移転作業のため，平成13年２月15日（木）から平成13年４月５日（木）までの期間休館いたします。ご不便をおかけしますが，ご了承くださいますようお願いいたします．

なお，平成13年４月３日（火）までの間は，一部業務について講義棟101及び106講義室に図書館を仮移転して行っています。

〈仮移転先での業務内容〉

101講義室	閲覧（今年度分雑誌，新着図書，新着新聞） 貸出し（研究図書・雑誌，新着図書） 複写 ILL
106講義室	資料購入受付他

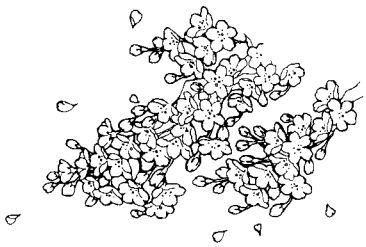
教員・大学院生に実施している時間外利用は，２月14日（水）17：00～４月６日（金）９：00までの間停止となります。

新規開館は４月６日（金）からとなります。もうしばらくご協力ください．

附属図書館日誌

Chronological Notes

2000.12.12　大阪大学附属図書館職員見学（３名）
12.13　平成12年度第２回館報編集委員会開催
1.12　平成12年度第５回附属図書館運営委員会開催
平成12年度第７回資料選定専門委員会開催
2001.2.2　小樽商科大学附属図書館職員見学（１名）
滋賀大学教育学部講師見学（１名）
平成12年度第６回附属図書館運営委員会開催
2.15-16　附属図書館改修工事による移転のため休館
2.19　仮移転先（101講義室）にて開館
2.26　静岡大学附属図書館職員見学（２名）
3.5　広島大学附属図書館職員見学（１名）



編集後記：卒業式には蕾が日一日とほころび，卒業生の前途に幸多かれと祈り，入学式には一気に花開き寿ぐ．桜と大学生活には深い縁があるような気がします。図書館も４月には満開の姿をお見せできることを念じつつ．

最新情報は附属図書館ホームページをご覧下さい．
（URL http://www.ulis.ac.jp/library/）

編集委員会：枚本重雄，松本浩一，横山敏秋，福井　恵，廣田直美，寺本しほり

図書館情報大学附属図書館報　Vol. 17　No. 1　2001年３月25日発行（季刊）
編集・発行　〒305-8550 茨城県つくば市春日１－２　図書館情報大学附属図書館　☎0298-59-1210
Library, University of Library and Information Science/1-2 Kasuga, Tsukuba, Ibaraki 305-8550, Japan